

環境衛生課からの お知らせ

環境衛生課（吉備庁舎）
清水行政局 建設環境室

「ごみ分別すれば資源」

石垣小学校4年生が環境 センターとプラスチック 収集場を見学

6月24日（火）、石垣小学校4年生の皆さんが、環境センターと町営プラスチック収集場を見学しました。

最初に訪れた環境センターでは、燃えるごみは焼却、燃えないごみは埋め立てられていることをDVDで学んだ後、ガラス越しにごみ処理の過程を見学しました。

ピットに投入されたごみが、大きなアームで持ち上げられたり混ぜられたりするダイナミックな



動きに「すごい！」と声を上げる子もおり、興味津々の様子でした。

続いて訪れたプラスチック収集場では、家庭から分別されたプラスチックが、機械で袋を破かれ、人の手で汚れや異物を取り除かれていく作業の流れを見学しました。

その後、きれいに選別されたプラスチックが「プラスチックペール」に加工され、資源として再利用



用されていることを教わりました。

見学中は、子どもたちがたくさん質問し、熱心に話を聞きながら真剣にメモを取る姿が印象的でした。ごみや資源の行方を知り、暮らしと環境のつながりを考える良い機会となったように感じます。

買う前に「処分」のことも 考えてみませんか？

ネット通販などで、リチウムイオン電池搭載製品が簡単に手に入るようになりました。しかし、こうした製品の中には、適正に処分するルートが整っていない物があります。処理方法が確立されていないまま新しい商品が次々と出てきており、廃棄時の対応が追いついていないのが現状です。

その他にも、買いだめして使えなくなった花火や中身の残ったカセットボンベなどは、処分が難しく、ご

家庭から出る 燃えるごみの収集量

令和7年（2025年）6月

約267トン

前月から約37トンの減少

みに出すと爆発などの恐れがあります。

※使用後の花火は、水に浸して燃えるごみで処分しましょう。カセットボンベは使い切ってから、燃えないごみで処分できます。

買うときは簡単でも、いざ処分しようとするとき正しい方法が分からず、困ってしまうことがあります。特に、処分ルートが確立されていない商品については、自治体でも対応することが困難です。

「便利さや安さだけでなく「処分」の仕方は？」「最後まで責任を持つる？」という視点も、これからの買い物には大切です。購入前にもう一度、本当に必要かどうか、よく考えてみましょう。

令和8年度（2026年度）から令和10年度（2028年度）までの資源ごみの収集運搬業務受託者を募集します。応募資格・応募方法・受付期間などは、広報ありだがわ10月号に掲載しますので、ご覧ください。